

令和7年度学校経営報告

目標と方策	取組と自己評価	達成状況
「温かく厳しい、丁寧で粘り強い指導」のもと、朝 SHR の遅刻防止をはじめ、あらゆる教育活動において、時間厳守の指導を徹底するなど、学校及び社会のルールやマナー等を自発的に守れる生徒の育成を図る。	登校時の健康観察、朝の SHR や登校時の挨拶等の取組を行った。遅刻指導については、全教員での昇降口での立ち番指導や各クラスでの声掛けなどにより粘り強く指導し、昨年度よりも遅刻者が減少した。	A
社会人として、また良好な人間関係を築くうえで基礎となるコミュニケーション能力を向上させるとともに、あわせて挨拶を交わす指導を徹底する。	進路指導部が中心となり、各学年の進路ガイダンスを毎学期実施し、社会人として必要な身だしなみ、マナー、日常会話の常識等の指導を行った。	A
学校いじめ対策委員会を核とした組織的な対応等を徹底し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、重大事態への対処に取り組む。また、スクールカウンセラーとの連携を密にし、生徒の SOS 早期発見・早期支援の一層の推進に取り組む。さらに、校内での盗難を組織的に防止するなど、安全・安心な学校づくりを徹底する。	いじめ防止の徹底を図るため、いじめ防止教室を開催したほか、学校いじめ対策委員会を年間 14 回実施した。	A
学力向上研究校事業を活用した基礎ゼミで学び直しを図り、発展ゼミで上位中位の生徒を伸ばし、組織的に学力向上に取り組む。	基礎ゼミを年間 20 回実施し、延べ 380 人参加した。看護ゼミ、公務員ゼミなどの発展ゼミを年間 26 回実施し、大学の看護学部・都立看護学校等に 9 人合格、公務員試験に 3 人合格した。	A
教育のDXを推進し、オンライン英会話を含めた学習環境を整え、基盤となる英語力を育成し、グローバル人材の育成を図る。また、予習復習や自宅学習の課題の指示、小テストなどきめ細かな指導等を実施し、生徒の自宅学習、学習習慣の定着を図る。	学習支援サービス Office365 やクラウドサービスのスタディサプリ等を活用し、教育のDXを推進した。生徒一人1台端末を有効活用し、オンラインで課題配信等を行った。オンライン英会話は2学年で一人3回実施した。また、教員のICT研修を開催し、11月にオンライン学習デーを滞りなく行った。	A
全ての教育活動を進路実現に関連付けながら指導し（進路指導重点主義）、進路決定率の高水準を維持する。また、文系・理系ともに進路先を積極的に開拓し、生徒の進路希望実現の選択肢を拡げる。	毎週、学年を含めた拡大進路指導部会を開催し、進路指導部主導でガイダンス・講演会・指導会を年間計画通り実施した。就職指導、看護医療ゼミ、公務員ゼミ、大学進学者の小論文指導、1・2学年向け合格体験講話等を計画通りに実施した。現役進路決定率は94.6%となった。	B
魅力ある授業、魅力ある行事、魅力ある部活動に取り組み、在校生及び中学生にとって魅力ある高校を実現する。	また、学校見学会を4回、学校説明会を5回実施し、中学生に魅力ある拝島高校について発信することができた。部活動においても、サッカー部の2部昇格、吹奏楽部の金賞受賞など、活性化してきている。入学者選抜の一次応募倍率は0.96倍であった。	B
近隣小中学校、地域自治会、昭島市との交流を促進するとともに、学校紹介動画を活用して幅広く募集広報活動を全員体制で展開し、中学生、地域等の外部からのニーズを捉え対応していく。	生徒会を中心に、昭島環境未来会議や昭島市読書フォーラム実行委員会、昭島市交通安全教室などに参加するなど、地域との交流を積極的に行った。生徒が母校訪問を行った他、教員が市内の中学校や塾を訪問し、拝島高校の魅力を発信した。	A
部活動加入率を高める工夫を行い、全部活動の活性化・充実を図る。また、全校共同作業を継続する。	部活動加入率は74.0%で昨年度よりも増加した。また、「巨大貼り絵」では高専連携として専門学校と連携し、「巨大貼り絵」にプロジェクションマッピングを投射し、文化祭で披露した。	A
特別支援教育委員会を中心に、支援が必要な生徒の情報の共有や教員対象の研修会を実施し、共生社会の実現に向けた多様な学びに対する理解を促進する。	特別支援教育委員会を年間30回実施し、学校全体で生徒の問題行動や見守りが必要な生徒の把握に努めた。また、教員対象の特別支援教育研修会を実施した。	A
体力テストや体育祭等の体育的行事を計画的に実施し、体力や健康に関する意識啓発を図り、一層の体力向上を目指す。	体育祭を引き続き7団対抗で実施できた一方、熱中症対策が十分ではないなど課題が残った。また、クロスカントリー大会を開催し、日ごろから生徒の体力向上に努めた。	B
計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底するとともに、年次有給休暇の計画的な取得を推進し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、体罰等の服務事故の根絶に取り組む。	計画的な年次有給休暇取得を呼びかけ、職員のライフ・ワーク・バランスの安定を図った。また、毎回の企画調整会議を50分以内、職員会議を60分以内で終了した。また、職員会議等でミニ服務事故防止研修を35回実施し、服務事故は0件であった。	B

数値目標			
令和7年度の実績			6年度 ← 5年度 ← 4年度 ← 3年度
①	入学者選抜 推薦応募倍率	1.66倍	2.16倍 ← 2.11倍 ← 2.09倍 ← 1.70倍
②	入学者選抜 一次応募倍率	0.96倍	0.99倍 ← 1.21倍 ← 1.06倍 ← 0.94倍
③	ホームページ更新回数	254回	331回 ← 255回 ← 256回 ← 188回
④	入学してよかったと思う生徒の割合	86.9%	80.4% ← 82.9% ← 76.3% ← 80.7%
⑤	授業に対する生徒の満足度	75.3%	77.3% ← 72.5% ← 75.0% ← 77.2%
⑥	進路指導に対する生徒の満足度	86.6%	90.6% ← 86.6% ← 89.1% ← 91.7%
⑦	進路決定率	94.6%	95.1% ← 96.9% ← 96.3% ← 98.3%
⑧	一年間の延べ遅刻回数	4312回	5042回 ← 4863回 ← 3971回 ← 2834回
⑨	部活動加入率	74.0%	71.2% ← 69.9% ← 49.3% ← 66.0%

<次年度以降の課題と対応策>

項目	課題	対応策	重要度
学習指導	基礎学力の向上	① 基礎ゼミ等を分掌に位置付けて組織化を図り、生徒の基礎学力向上に取り組む。 ② 相互の授業観察等を活性化し、組織的な授業改善を進める。 ③ 学校での補習・補講のみならず、家庭学習時間の確保に工夫・改善を図る。	A
進路指導	進路に対する意識向上と進路実現	① 3年間を見通したキャリア教育の全体計画を策定し、進路指導部主導の進路活動や進路行事を組織的に行う。 ② 総合的な探究の時間を進路探究として活性化し、生徒の希望する進路実現に取り組む。 ③ 保護者へ向けた進路情報の発信について工夫・改善を図り、保護者への進路に関する啓発活動や保護者との連携した指導を充実させる。	A
特別活動	コミュニケーションに関する教育の充実	① 「社会的・職業的自立支援プログラム」を活用したコミュニケーションに関する教育を充実する。 ② 「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を活用したチームビルディング事業を実施し、人間関係の構築を促す。	B
その他	働き方改革の推進	① 必要に応じて産業医による面接を実施したり、計画的な年休取得を促進したりすることにより、心身の健康の保持・増進を図る。 ② 職層に応じた役割分担を明確にし、業務改善に組織的に取り組むことにより、業務の効率化を図り、在校時間の削減に努める。	B
	いじめ対策	① いじめ総合対策に基づく校内研修を実施し、全教員でいじめを未然に防止する校内体制を整える。 ② 学級活動や部活動、学校行事など、様々な機会を捉えて、学校や学級における豊かな人間関係構築の取組を推進する。 ③ いじめや自死の抑止に向け、生徒がSOSを発信しやすい学校づくりやSNS東京ルール周知徹底の取組を強化する。	A
	悩みを抱える生徒や問題行動が心配される生徒への対応	① 不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対して、担任・特別支援教育コーディネーター・SC等が連携をとり、すべての教職員が情報の共有を図ることができる校内体制を確立する。 ② 学級担任は、保護者との連携を密にし、必要に応じて外部機関との連携を図り、生徒への適切な支援に努める。 ③ 特別支援委員会を定期的に開催し、全教職員が生徒の情報共有に努め対応にあたる。	A